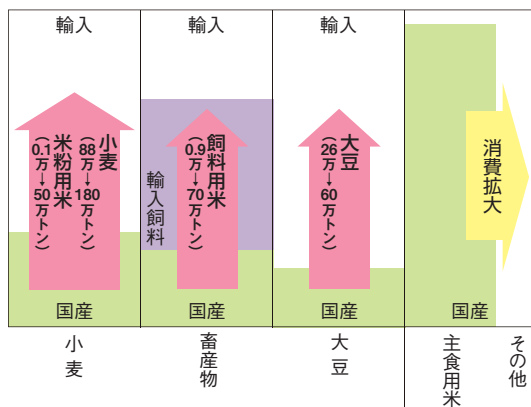


食料自給率50%目標の達成に向けた主要品目ごとの取り組み

主要品目からみた、食料自給率50%目標達成に向けた方向性

食料自給率目標の策定にあたって、個別品目ごとの生産数量目標とその数量目標達成のための今後の課題が明らかにされています。

ここでは、主食用米、米粉用米、飼料用米、小麦、大豆をとりあげて、各品目の取り組みを紹介します。



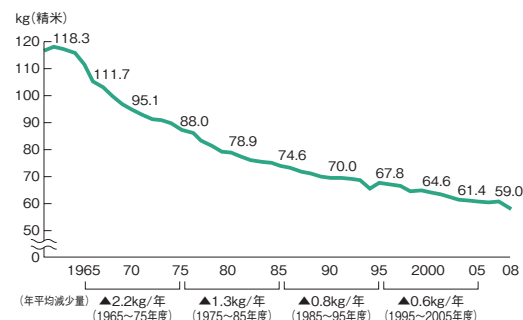
主食用米

生産数量目標:855万トン(2020年度) [現状:881万トン(2008年度)]
一人当たり消費量:62kg [現状:59kg]

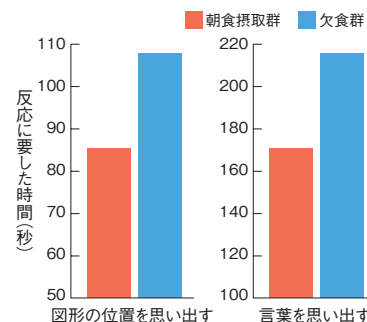
ポイント

- 消費者、外食・中食事業者、卸・小売業者等の多様なニーズに対応した供給
- 全国で1,700万人の朝食欠食者に対し「めざましごはんキャンペーン」を展開

●一人当たりコメ消費量の推移



●朝食をとると頭の回転が速くなる



資料: D・ベイトン他 米国臨床栄養学雑誌、1998年別冊特集を改編
20歳の男女について、37.7グラムの糖質、12.2グラムの脂質、18.5グラムのタンパク質、合計326キロカロリーを含む朝食を摂った場合は、摂らなかった場合に比べて、図形の空間配置の記憶を呼び戻す(図形の位置を思い出す)時間も、単語を思い起こす(言葉を思い出す)時間も速いことがわかりました。

資料: 女子栄養大学副学長・自治医科大学名誉教授 香川靖彦先生著書「科学が証明する朝食のすすめ」より抜粋

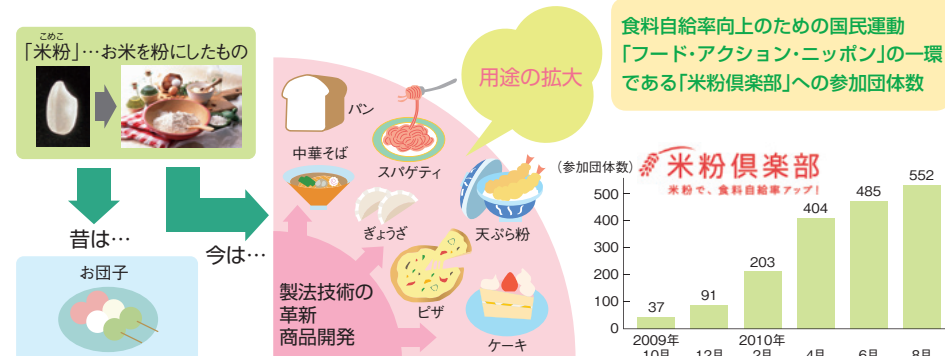


米粉用米

生産数量目標:50万トン(2020年度) [現状:0.1万トン(2008年度)]

ポイント

- 製法技術の革新、特徴を活かした商品開発等による消費の拡大
- 生産者・メーカー・流通・外食企業など関係者が一体となった「米粉倶楽部」の取り組み
- 作物が作付けられていない調整水田等を有効に活用した作付拡大



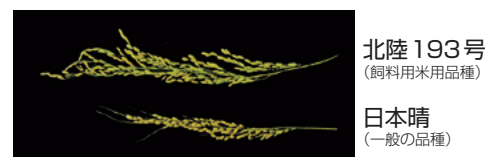
飼料用米

生産数量目標:70万トン(2020年度) [現状:0.9万トン(2008年度)]

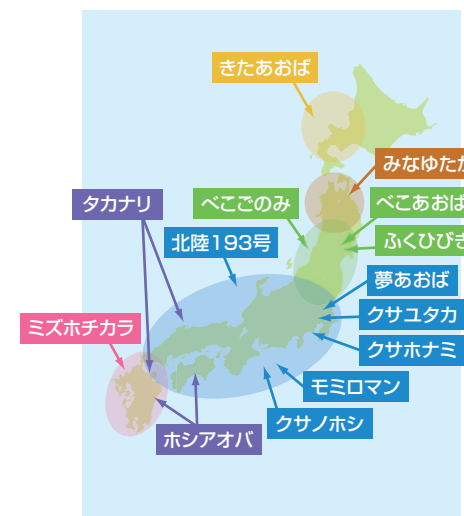
ポイント

- 多収米品種、栽培技術の普及による単収向上とたい肥を活用した肥料コスト低減
- 飼料用米の産地と畜産農家・配合飼料メーカーとのマッチング、流通体制の確立
- 作物が作付けられていない調整水田等を有効に活用した作付拡大

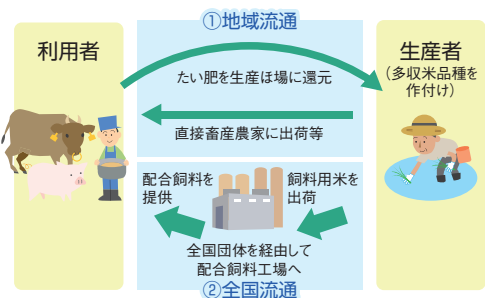
●多収米品種の活用



●主な多収米品種



●飼料用米の流通体制

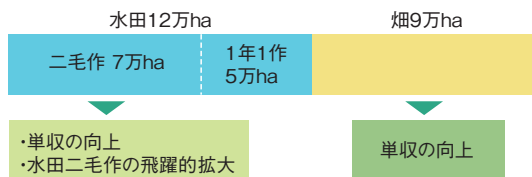


小麦 生産数量目標:180万トン(2020年度)〔現状:88万トン(2008年度)〕

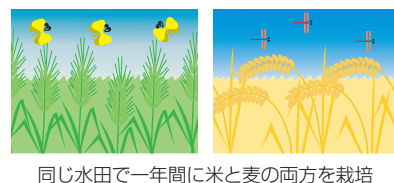
ポイント

- 品種育成・普及や加工技術の発達による、パン・中華めん用途への供給・利用拡大
- 温暖な関東以西における水田二毛作の広範な普及による作付拡大

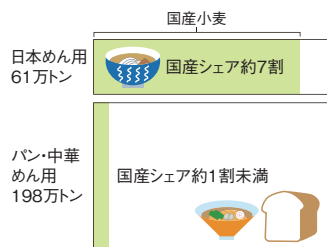
●国内生産の現状と拡大方向



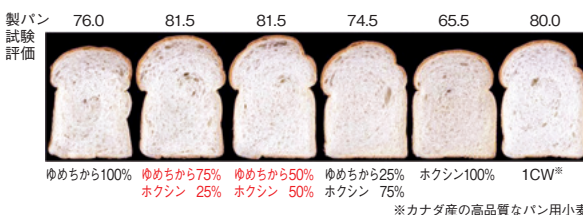
●水田二毛作



●小麦需要の現状



●「ゆめちから」と「ホクシン」のブレンドによる製パン試験結果



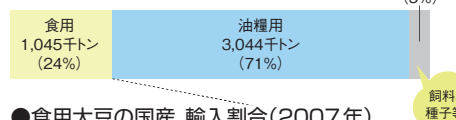
※パンを焼き上げた際にふくらみが大きいほど評価が高い。

大豆 生産数量目標:60万トン(2020年度)〔現状:26万トン(2008年度)〕

ポイント

- 食用大豆(約100万トン)の6割を国産化、特に豆腐等を中心に供給拡大
- 大豆300A技術等の栽培技術の普及、水田の団地的な利用の推進による生産拡大
- 調整水田や畑不作付地において作付拡大

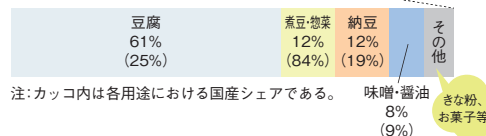
●我が国の大豆の需要量(2007年)



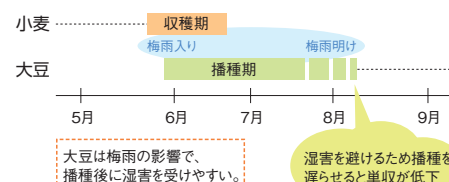
●食用大豆の国産・輸入割合(2007年)



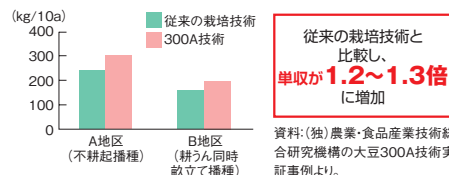
●国産大豆の用途別供給割合(2007年)



●大豆の播種期



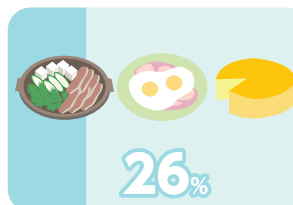
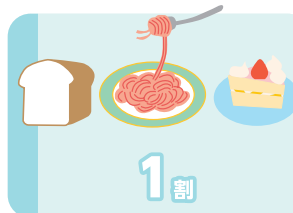
●湿害を回避し、単収を向上させる大豆300A技術



食料・農業・農村基本計画に掲げられた食料自給率目標50%が達成された時の私たちの食生活はどのようなものでしょうか。

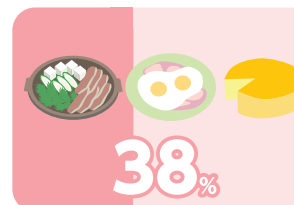
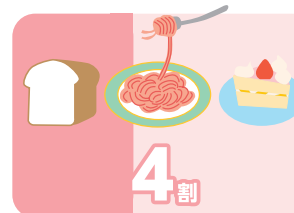
2008年度

食料自給率
41%



2020年度

食料自給率
50%



朝食欠食
1,700万人の
改善等で消費拡大

小麦製品について
国産小麦、米粉の
使用割合の増加

国産大豆製品の
増加

飼料用米等
国産飼料を
利用した
畜産物の増加

油の摂りすぎの
抑制